

国語科学習指導案

安芸高田市立船佐小学校

指導者 佐々木 加奈子

- 1 日 時 平成25年6月18日(火)第6校時
- 2 学 年 第6学年 13名
- 3 単元名 筆者に感想を送ろう「生き物はつながりの中に」
- 4 単元について

(1) 単元観

「学習指導要領解説国語編」には、「筆者がどのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているのか、また、どのような感想や意見、判断や主張などを行い、自分の考えを論証したり読み手を説得したりしようとするのかなどについて、筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の考えを明確にしていく」「自分の考えを明確にする場合には、自分の知識や経験、考えなどと関係付けながら自分の立場から書かれている意見についてどのように考えるか意識して読むことも大切である」とある。要旨を正しくとらえることを土台として、自分の考えを持ちそれを表現することまでが求められているのである。そこで、表現や構成に表された筆者の意図(要旨)をとらえ、筆者の考えに対して自分の考えを表現する力を身に付けさせたいと考え、本単元を設定する。

教材文『生き物はつながりの中に』は、「本物のイヌとロボットのイヌ、あなた」と事例をあげながら、生き物の特徴を述べ、生き物としてさまざまなつながりの中で、自分や他を大切にしながら生き物として生きていることが素晴らしいことだということを主張している尾括型の説明文である。本教材は、話題提示、三つの事例、まとめと筆者の意見で構成されており、どのような事実を事例として挙げ理由や根拠としているのか、どのように読み手を説得しようとしているのかについて考えながら読むことに適していると考えられる。また、筆者の主張については、児童が自分の知識や経験と関連付けて共感したり疑問を持ったりすることができ、自分の考えを広げたり深めたりすることに適していると考えられる。

(2) 児童観

本学級の児童は、5年生までの学習において、段落ごとのつながりや文章構成、要旨をとらえることや、説明するのに効果的な資料を使うなど筆者の工夫を読み取る学習をしてきている。しかし、要点をまとめ要約することや、筆者の思いや考えの中心である要旨を読者に伝わりやすくするために様々な工夫をしている点を意識して読み進める態度が自分のものになっていない児童が多い。

6年生になって「読むこと」の学習では「カレーライス」で叙述をもとに中心人物の心情の変化をとらえ、読書会での紹介文を書く学習を行った。自分の考えが持ちにくい児童が多かったため、表現するための語彙を表にして与えたところ、その語彙を使って考えたことをノートに書こうとする姿が見られた。書いたことは発表できるが、友達の影響を受けてさらに考えを広げたり深めたりしようとする意識には個人差が見られる。叙述を感覚的にとらえてしまい、的確にとらえることが難しい児童もいる。

(3) 指導観

①単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動として「筆者に手紙を書く」という言語活動を設定することで、「要旨をとらえて要約文を書く」「根拠を明らかにして自分の考えを表現する」というねらいにせまっていく。児童に提示する際、要約文を書く必然性を持たせるために、手紙の最初には筆者の挙げた事実から自分が受け取った筆者の意見を書くよう確認する。これが教材文の要約文にあたる。筆者に手紙を書くには、書かれている事柄を正しく読み要約せざるを得ない。手紙は次のような三部構成で書かせるように児童に提示する。

はじめ・・・自分は筆者の主張をどのように受け止めたかがわかる要約文と説明の工夫について書く。

中・・・自分の主張の根拠が伝わるように書く。

おわり・・・新たな考えや提案があれば表明する。まとめを書く。

②指導の工夫

児童の実態から、まずは確認のため事前にプレ教材「感情」で、事実と意見との関係をおさえ、要約文の書き方と文章構成の確認をし、自分の意見を書かせる活動をする。本教材では、プレ教材での学習をもとに手紙の前段となる要約文を書く。そのために要点をまとめ、筆者が読者に主張を伝えるための段落構成や事例の挙げ方、対比、文末表現など、説明の工夫をとらえることができるようにする。その後、筆者の主張に対し自分の意見を書かせる。

自分の考えを書かせる際には、「自分の考え・根拠・（あれば）提案」が必要であることを児童に伝える。また、自分の考えを持ちにくい児童が多いため、「共感できる（できない）、納得できる（できない）、わかりやすい（わかりにくい）」などの文末を与える。さらに、筆者を尊重する立場を大切にさせるため、いたずらに批判ばかりするのではなく、理解できることや評価できることは認め、その上での提案になるよう配慮する。

5 研修主題とのかかわり

自他のよさや違いを生かし、つながり合い共に高め合う児童の育成
～コミュニケーションを核とした学習活動の工夫を通して～

自己決定の場を与える

①自分の意見を持たせるために、自分の考えを書かせる際には、「自分の考え・根拠・（あれば）提案」が必要であることを児童に伝え「共感できる（できない）、納得できる（できない）、わかりやすい（わかりにくい）」などの文末を与える。

②交流の場を設定し、友達の意見をふまえて再考した自分の考えを書かせる。

自己存在感を与える

①互いの発言を最後まで聴くようにさせる。

②児童の意見を取り上げる際やふりかえりの際に、互いの考えや良さに気付かせるようにする。

共感的な人間関係を育成する

①単元を通して、筆者の考えを尊重する立場を大事にした展開をしていく。

②交流の場面において、お互いの意見の良さに着目できる言葉かけをするとともに、友達の見解でよいと思ったところを書かせる活動を組み入れる。

6 単元の目標

- 筆者の主張に対する自分の考えを持つために文章を読んだり、考えを表現したりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- 文章の構成や表現に注目して要旨をとらえ、自分の考えを持ちながら読むことができる。
(読むこと ウ)
- 文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(読むこと オ)
- 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解する。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) イ (キ))

7 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
「筆者に手紙を書くという言語活動」を通じた指導		
①筆者の主張に対する自分の考えを持つために文章を読もうとしている。 ②作者の工夫に着目しながら手紙を書こうとしている。	①目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて読んでいる。 ②文章の構成や事実と意見との関係、表現を意識しながら、筆者の主張や述べ方に対する自分の考えを明確にしながら読んでいる。 ③友達の見解との共通点や相違点から、自分の考えを広げたり深めたりしている。	①文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。

8 単元の指導と評価の計画 (全10時間)

次	学習活動	評価				評価方法
		関意態	読	言	評価規準	
1	学習の流れをつかみ一人学びをする。 (1)	◎			・見通しを持って学習に取り組もうとしている。 関①	行動観察
	ブレ教材「感情」で要約文を書き、主張に対しての意見を持つ。 ・文章の構成をつか		◎		・要点をまとめ、要約文を書いている。 読①	行動観察

	<p>み、筆者の主張と具体例の関係を読み取り、要約文を書く。(1)</p> <p>・筆者の考えに対しての意見を書く。(1)</p>		○	<p>・文や文章にはいろいろな構成があることについて理解している。言①</p> <p>・筆者の主張について、自分の考えを書いている。読②</p>	<p>ノート</p> <p>ノート</p> <p>ノート</p>
2	<p>「生き物はつながりの中に」を読み自分の意見を持つ。</p> <p>・題名読みをした後全体を読み、要点をまとめる。(1)</p>		◎	<p>・各段落の要点をまとめている。読①</p>	<p>ノート</p> <p>行動観察</p>
	<p>・筆者の述べ方の工夫を考える。(2)</p> <p>本時 2 / 5</p>		◎	<p>・対比の効果・事例のあげ方・文末表現の工夫について考え、述べ方のよさについて考えている。読②</p>	ノート
	<p>・筆者の主張部分にこめられた意図を事例や表現から考え、自分の意見をもつ。(1)</p>	○	◎	<p>・筆者の主張についての自分の意見を書いている。読②</p> <p>・筆者の主張に対する自分の考えを持つために文章を読もうとしている。関①</p>	ノート
	<p>・意見を交流する。(1)</p>		◎	<p>・友達の意見との共通点や相違点から、自分の考えを広げたり深めたりしている。読③</p>	<p>行動観察</p> <p>ノート</p>
3	<p>手紙を書き交流する。</p> <p>・要約文と筆者の説明のよさ・自分の考えを入れた手紙を書く。(1)</p>	◎		<p>・筆者の主張に対して、内容や述べ方に着目しながら手紙を書こうとしている。関②</p> <p>・筆者の主張についての自分の意見を書いている。読②</p>	手紙
	<p>・手紙を友達と交流し、加筆修正する。(1)</p>		◎	<p>・友達の意見との共通点や相違点から、自分の考えを広げたり深めたりしている。読③</p>	<p>行動観察</p> <p>ノート</p>

9 本時の学習

(1) 本時の目標

要点の並べかえを行うことを通して、段落の関係をとらえ筆者の述べ方の工夫を考えることができる。

(2) 本時の評価規準

文章の組み立て方、事例の挙げ方など筆者の述べ方の工夫について考えている。

(3) 本時の展開

活動内容	指導上の留意点	評価規準	評価方法
1 音読をする。	・音読をさせ、学習の構えをつくる。		
2 前時までに学習したことを振り返る。	・はじめ・中・おわりの段落構成や対比を使った説明などの工夫を振り返る。		
3 本時のめあてを知る。			
要点バラバラ事件発生！段落の関係を考えながら並べ替えよう			
4 ばらばらの要点を並べかえる。	・記憶にたよるのではなく、根拠を持ちながら並べかえるように指示する。 (決) ・ペアで交流させる。		
5 全体で確認する。	・理由を述べながら並べかえさせる。 (存) ・文章構成については、プレ教材「感情」の構成を参考にさせる。 ・2段落で戸惑う場合は、3段落とのつながりを見るようにさせ、2段落と3段落がひとまとまりであることをとらえさせる。		
6 筆者の述べ方の工夫について意見交流をする。	・「本論」の部分の順序について焦点化して検討させる。	指導のポイント ・友達の見解でよいと思ったことを書かせる。 ・互いの発言を最後まで聴くようにさせる。 ・交流で再考した自分の考えを自分の言葉で書かせる。	
	◎なぜ、筆者はこの順番で事例を挙げたのだろう。 ・自分の考えを書かせてから交流をさせる。 ・友達の見解で「なるほど」と思ったところはメモするように指示しておく。 (決) (存) (共)		
7 本時の学習を振り返り、次時の課題を知る。	・3つの事例の挙げ方について自分の考えを書かせる。 (決) ・次時は筆者の主張部分にこめられた意図を考え、自分の考えを書くことを伝える。	・3つの事例の挙げ方・関係や文章構成の工夫について自分の言葉で書いている。	ノート 振り返りの記述

言語活動の充実

※ (決)…自己決定の場を与える (存)…自己存在感を与える (共)…共感的人間関係を育成する

